

第5部 人口減少問題への対応

1. 宇陀市の人口動向と課題

(1) 宇陀市の人口動向

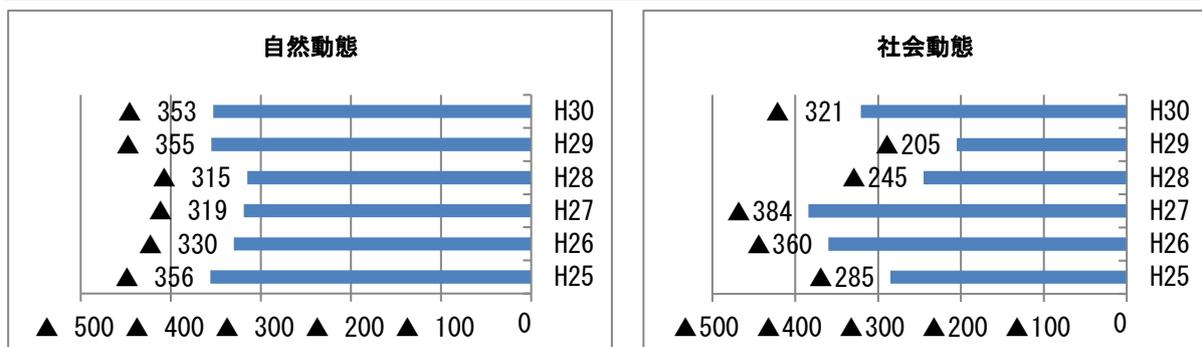
平成 30 年度の宇陀市の人口は、平成 29 年度と比較して 674 人の減少となりました。前年度までの傾向と比較すると、平成 28～29 年度にかけて横ばいの傾向となつてから一転し、人口が減少しています。

その内訳をみると、自然動態は平成 29 年度と同水準となっていますが（H29 年度：自然動態 ▲355→▲353）、社会動態において大きく減少しました（H29 年度：社会動態 ▲205→▲321）。

$$(\text{自然増減} \blacktriangle 353) + (\text{社会増減} \blacktriangle 321) = 674 \text{ 人の減少}$$

表 1 宇陀市の人口推移

区分		年度						平均 (H25～H29)
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	
宇陀市全体	総人口	33,413	32,723	32,020	31,460	30,900	30,226	-
	自然動態①+社会動態②	▲641	▲690	▲703	▲560	▲560	▲674	▲631
	自然動態①	▲356	▲330	▲319	▲315	▲355	▲353	▲335
	社会動態②	▲285	▲360	▲384	▲245	▲205	▲321	▲296
大宇陀地域	人口	7,263	7,106	6,915	6,731	6,564	6,376	-
	自然動態①+社会動態②	▲156	▲157	▲191	▲184	▲167	▲188	▲171
	自然動態①	▲83	▲72	▲102	▲99	▲95	▲95	▲90
	社会動態②	▲73	▲85	▲89	▲85	▲72	▲93	▲81
菟田野地域	人口	4,089	3,989	3,885	3,804	3,683	3,594	-
	自然動態①+社会動態②	▲88	▲100	▲104	▲81	▲121	▲89	▲99
	自然動態①	▲66	▲71	▲54	▲40	▲55	▲52	▲57
	社会動態②	▲22	▲29	▲50	▲41	▲66	▲37	▲42
榛原地域	人口	17,134	16,844	16,542	16,284	16,139	15,845	-
	自然動態①+社会動態②	▲237	▲290	▲302	▲258	▲145	▲294	▲246
	自然動態①	▲122	▲106	▲88	▲109	▲139	▲141	▲113
	社会動態②	▲115	▲184	▲214	▲149	▲6	▲153	▲134
室生地域	人口	4,927	4,784	4,678	4,641	4,514	4,411	-
	自然動態①+社会動態②	▲160	▲143	▲106	▲37	▲127	▲103	▲115
	自然動態①	▲85	▲81	▲75	▲67	▲66	▲65	▲75
	社会動態②	▲75	▲62	▲31	30	▲61	▲38	▲40



出典：宇陀市資料（住民基本台帳に基づく）

図 1 自然動態と社会動態の推移

また、自然動態に着目すると、出生数は昨年度と同程度（H29年度：118人→H30年度：116人）であり、死亡数はほぼ横ばいの傾向（H29年度：473人→H30年度：469人）、合計特殊出生率は大きく低下（H29年度：1.00→H30年度：0.86）しています。

なお、合計特殊出生率は、奈良県・全国に比べても落ち込みが顕著となっています（奈良県 H29：1.33，全国 H29：1.43）。

表2 自然動態の詳細

区分		年度						平均 (H25~H29)
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	
宇陀市全体	自然動態①-②	▲ 356	▲ 330	▲ 319	▲ 315	▲ 355	▲ 353	▲ 335
	出生数①	148	154	143	146	118	116	142
	死亡数②	504	484	462	461	473	469	477
大宇陀地域	自然動態①-②	▲ 83	▲ 72	▲ 102	▲ 99	▲ 95	▲ 95	▲ 90
	出生数①	39	27	31	25	19	22	28
	死亡数②	122	99	133	124	114	117	118
菟田野地域	自然動態①-②	▲ 66	▲ 71	▲ 54	▲ 40	▲ 55	▲ 52	▲ 57
	出生数①	23	11	22	18	22	23	19
	死亡数②	89	82	76	58	77	75	76
榛原地域	自然動態①-②	▲ 122	▲ 106	▲ 88	▲ 109	▲ 139	▲ 141	▲ 113
	出生数①	73	99	74	88	62	64	79
	死亡数②	195	205	162	197	201	205	192
室生地域	自然動態①-②	▲ 85	▲ 81	▲ 75	▲ 67	▲ 66	▲ 65	▲ 75
	出生数①	13	17	16	15	15	7	15
	死亡数②	98	98	91	82	81	72	90

表3 出生数と合計特殊出生率の推移

区分		年度						平均 (H25~H29)
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	
宇陀市全体	出生数①	148	154	143	146	118	116	142
	前年比	—	+6	▲ 11	+3	▲ 28	▲ 2	▲ 8
	合計特殊出生率	0.9	1.05	0.93	1.11	1.00	0.86	1.00
大宇陀地域	出生数①	39	27	31	25	19	22	28
	前年比	—	▲ 12	+4	▲ 6	▲ 6	+3	▲ 5
菟田野地域	出生数①	23	11	22	18	22	23	19
	前年比	—	▲ 12	+11	▲ 4	+4	+1	▲ 0
榛原地域	出生数①	73	99	74	88	62	64	79
	前年比	—	+26	▲ 25	+14	▲ 26	+2	▲ 3
室生地域	出生数①	13	17	16	15	15	7	15
	前年比	—	+4	▲ 1	▲ 1	0	▲ 8	+1

参考： 合計特殊出生率	奈良県	1.31	1.27	1.35	1.27	1.33	未発表	1.31
	全国	1.43	1.42	1.46	1.44	1.43		1.44

参考：婚姻届件数	105	96	93	108	95	65	99
----------	-----	----	----	-----	----	----	----

出典：宇陀市資料（住民基本台帳に基づく）

社会動態に着目すると、H30年度における市内外からの転入数は、大きく増加したH29年度に迫る756人となっていますが、H30年度における市内外からの転出数はH29年度よりも増えて1,077人となり、平成25年度～29年度までの平均値995人をも超える水準となっています。

表4 社会動態の詳細

区分		年度						平均 (H25～H29)
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	
宇陀市全体	社会増減①－②	▲285	▲360	▲384	▲245	▲205	▲321	▲296
	市外からの転入数①	727	664	633	686	787	756	699
	市外への転出数②	1,012	1,024	1,017	931	992	1,077	995
大宇陀地域	社会増減①－②＋③	▲73	▲85	▲89	▲85	▲72	▲93	▲81
	市外からの転入数①	123	129	122	111	126	87	122
	市外への転出数②	198	208	201	182	191	172	196
	市内での転居件数③	2	▲6	▲10	▲14	▲7	▲8	▲7
菟田野地域	社会増減①－②＋③	▲22	▲29	▲50	▲41	▲66	▲37	▲42
	市外からの転入数①	87	72	60	73	73	75	73
	市外への転出数②	118	114	121	110	116	104	116
	市内での転居件数③	9	13	11	▲4	▲23	▲8	1
榛原地域	社会増減①－②＋③	▲115	▲184	▲214	▲149	▲6	▲153	▲134
	市外からの転入数①	425	374	347	323	366	311	367
	市外への転出数②	541	544	559	485	394	485	505
	市内での転居件数③	1	▲14	▲2	13	22	21	4
室生地域	社会増減①－②＋③	▲75	▲62	▲31	30	▲61	▲38	▲40
	市外からの転入数①	92	89	104	179	222	283	137
	市外への転出数②	155	158	136	154	291	316	179
	市内での転居件数③	▲12	7	1	5	8	▲5	2

出典：宇陀市資料（住民基本台帳に基づく）

(2) 宇陀市の抱える課題

宇陀市の人口動向を踏まえ、現状を整理すると、人口減少をはじめ、少子高齢化の進展や働く世代の流出、婚姻数の減少等が顕在化しています。

<宇陀市の現状>

【全体的な傾向】

- ・ H30 年度は 674 人の減少となっており、前年度と比較して減少数が大きくなっている。
- ・ 人口減少のペースは社人研推計（H27 国勢調査）に近く、宇陀市人口ビジョンにおける人口推計よりも減少のペースが早くなっている。
- ・ 少子高齢化がより進展しており、2025 年～2030 年頃には老年人口が生産年齢人口を上回ると予想されている。

【自然動態における傾向】

- ・ 全地域で減少傾向にある。
- ・ 全地域での死亡数はほぼ横ばいであるのに対し、出生数は減少しており、H29 年及び H30 年度には大幅に減少している。
- ・ 健康寿命の県内順位は男性：26 位、女性：30 位である。（H28 年度実績）

<出生数>

- ・ H30 年度の宇陀市の合計特殊出生率は 0.86。
- ・ H25 ～H29 年度の平均は 1.0 で、宇陀市の合計特殊出生率は奈良県（平均 1.31）・全国（平均 1.44）を下回って推移しており、近年はその落ち込みが顕著。
- ・ H30 年度の宇陀市の婚姻届数は 65 件であり、H25～H29 年度の平均届出 99 件から大きく減少している

【社会動態における傾向】

- ・ 全地域で減少傾向にある。
- ・ H28～H30 年度において、市外からの転入数が増加傾向にあるものの、それを上回る転出数の増加が続いている（転出超過）。
- ・ 一方で、H30 年度には 0 歳～9 歳は転入超過となっている。

<転出数>

- ・ 全地域で増加傾向にある。
- ・ 世代別では、10 代～50 代までの働く世代の流出が顕著となっている。

<転入数>

- ・ H29～H30 年度にかけては増加傾向にある。
- ・ 世代別にみると、20 代～30 代の転入の割合が高くなっている。

宇陀市の現状をもとに、宇陀市が抱える課題を整理すると、産業・観光、移住定住、子育て支援、健康づくり、安全安心な地域づくり等、その分野は多岐に渡ります。

【現状からみえる課題】

- ・人口減少、少子高齢化を背景にした税収の減少や社会保障費の増加等で逼迫する財政状況を改善しなければならない。
- ・将来を担う世代や働く世代の流出を防ぐとともに、高齢者世代の一人暮らし等による孤立感を解消しなければならない。
- ・少子高齢化の進展に伴い、地域を支えるメンバーの高齢化が顕著となっており、若手人材の育成が必要である。
- ・宇陀市での暮らしやすさを支えてきた交通・インフラを今後も維持する必要がある。
- ・ゲリラ豪雨等が頻発する中、急峻な地形が多い宇陀市は災害リスクに備える必要がある。
- ・若年層や働く世代に、安心して子どもを産み育てられる環境を整える必要がある。
- ・若年層や働く世代は子育て等にかかる費用の負担が大きいと感じており、安定的な収入を確保できる環境整備が必要である。
- ・宇陀市の教育環境・カリキュラムの情報をもっと市外へ発信しなければならない。
- ・ウェルネスシティ宇陀市の取組等を積極的に推進し、健康寿命の向上を図らなければならない。
- ・宇陀市で働くことに興味を持ってもらわなければならない。
- ・地場産業や農林業といった基幹産業の発展に向けて、担い手を確保しないといけない。
- ・新しい視点や分野で産業振興・雇用創出に取り組む必要がある。
- ・事業所等の店舗を増やし、にぎわいを創出しなければならない。
- ・観光振興を図っているが、訪問客数が伸び悩んでいるため、観光消費の向上を図る取組を講じなければならない。
- ・宇陀市で住みながら働き続けるという選択をしてもらう必要がある。
- ・宇陀市の田舎暮らしの魅力等の情報を届きたい層に届けていく必要がある。

人口減少の進展は、地域の需要低下や労働力人口の減少による経済活動の縮小を引き起こし、雇用が不安定になることで結婚や子育て・出産にも影響が及びます。

こうした負のスパイラルを防ぐためには、地域経済の活性化や定住の促進、まちの魅力向上など取組を通じて継続的な好循環を生み出すための取組が重要となります。

2. 目指すべき将来の方向性と人口の将来展望

(1) 将来人口の目標

平成 27 年に策定した「宇陀市人口ビジョン」では、人口の将来目標として「2040 年に 23,000 人」を掲げました。しかし、策定後に公表された平成 27 年度の国勢調査の結果では、宇陀市の人口は 31,105 人であり、人口ビジョンにおいて想定した人口 32,563 人よりも約 1,400 人減少する結果となりました。

また、人口ビジョン策定から現在に至るまでの間において、宇陀市を取り巻く環境が変化し続けていることも踏まえ、新たに将来人口の推計を行いました。

	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)
宇陀市の将来展望(H27策定)	32,563	30,260	28,207	26,323	24,625	23,157
シミュレーションA	31,105	28,079	25,841	23,869	22,074	20,418
シミュレーションB	31,105	28,079	25,847	23,525	21,105	18,632
社人研準拠の人口推計	31,105	28,079	25,130	22,249	19,419	16,677
シミュレーションC	31,105	27,585	23,972	20,352	16,816	13,342

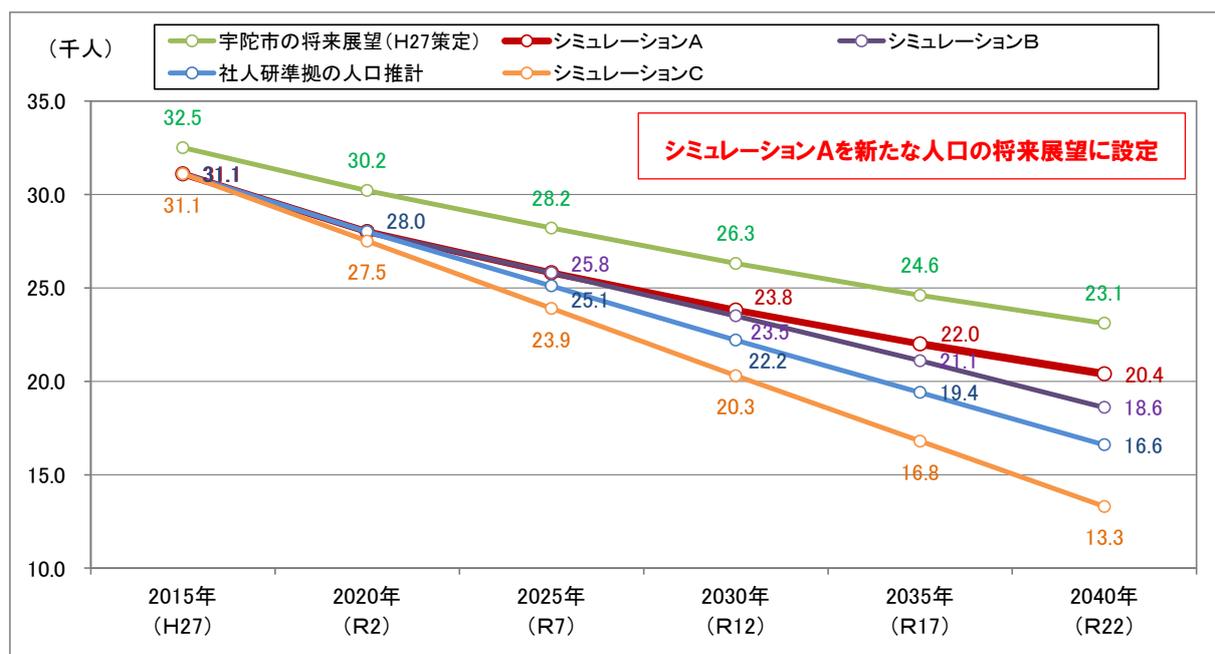


図 2 将来人口の推計結果

【シミュレーションのパターン】

- ①宇陀市の将来展望（H27 策定）：H27 年度策定の人口ビジョンより
- ②シミュレーションA：社人研準拠の人口推計をベースに合計特殊出生率が年々上昇、さらに、人口移動が年々改善すると共に、生残率が改善（一定値）
- ③シミュレーションB：社人研準拠の人口推計をベースに人口移動が改善（一定値）
- ④シミュレーションC：社人研準拠の人口推計をベースにH30 年度と同水準の合計特殊出生率、さらに、H30 年度と同水準の社会増減数（約 300 人/年）
- ⑤社人研準拠の人口推計：H27 年国勢調査に基づく人口推計に準拠

※社人研準拠の推計は、内閣官房まちひと・しごと創生本部事務局から提供されたものを使用。社人研から公表された基礎データに基づき再計算しており、端数処理等の関係で、「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」とは、若干数値が異なることに留意が必要。

【シミュレーションにおける条件設定】

<合計特殊出生率>

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
宇陀市の将来展望(H27策定)	1.30000	1.45000	1.60000	1.75000	1.90000
シミュレーションA	1.17583	1.20000	1.30000	1.35000	1.40000
シミュレーションB	1.17583	1.16516	1.17037	1.17356	1.17684
社人研準拠の人口推計	1.17583	1.16516	1.17037	1.17356	1.17684
シミュレーションC	0.86000	0.86000	0.86000	0.86000	0.86000

<純移動率>

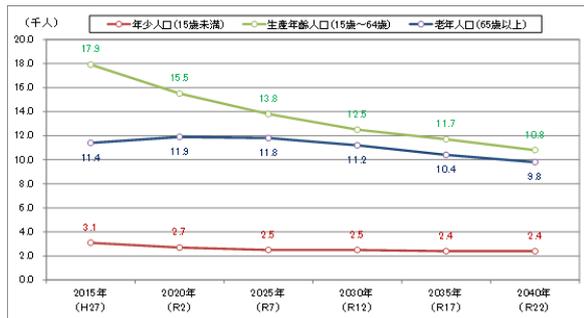
- ①宇陀市の将来展望：アンケートから算出＋生産年齢人口で純移動率が継続的に改善
- ②シミュレーションA：社人研準拠の推計に対して、年少人口及び生産年齢人口で純移動率が継続的に改善
- ③シミュレーションB：社人研準拠の推計に対して、全年齢で純移動率が若干改善（一定値）
- ④シミュレーションC：社人研準拠の推計に対して、全年齢で純移動率が継続的に悪化

<生残率>

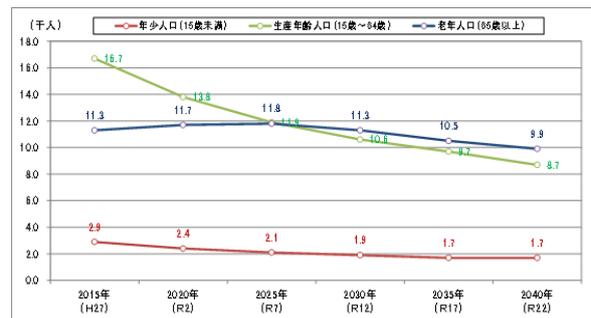
- ①宇陀市の将来展望：社人研の推計値（当時）を採用
- ②シミュレーションA：社人研準拠の推計に対して、老年人口で若干改善
- ③シミュレーションB：社人研準拠の推計を採用
- ④シミュレーションC：社人研準拠の推計を採用

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
宇陀市の将来展望 (H27策定)	年少人口(15歳未満)	3,105	2,753	2,565	2,510	2,449	2,435
	生産年齢人口(15歳～64歳)	17,970	15,554	13,804	12,531	11,735	10,859
	老年人口(65歳以上)	11,488	11,954	11,839	11,282	10,442	9,863
シミュレーションA	年少人口(15歳未満)	2,997	2,477	2,113	1,906	1,769	1,711
	生産年齢人口(15歳～64歳)	16,718	13,854	11,922	10,631	9,786	8,751
	老年人口(65歳以上)	11,390	11,749	11,807	11,332	10,519	9,956
シミュレーションB	年少人口(15歳未満)	2,997	2,477	2,097	1,790	1,510	1,287
	生産年齢人口(15歳～64歳)	16,718	13,854	11,922	10,357	9,057	7,486
	老年人口(65歳以上)	11,390	11,749	11,829	11,377	10,538	9,859
社人研準拠の人口推計	年少人口(15歳未満)	2,997	2,477	2,045	1,701	1,395	1,157
	生産年齢人口(15歳～64歳)	16,718	13,854	11,606	9,818	8,360	6,724
	老年人口(65歳以上)	11,390	11,749	11,479	10,730	9,664	8,796
シミュレーションC	年少人口(15歳未満)	2,997	2,452	1,982	1,597	1,253	971
	生産年齢人口(15歳～64歳)	16,718	13,702	11,231	9,192	7,488	5,626
	老年人口(65歳以上)	11,390	11,607	11,072	9,987	8,573	7,251

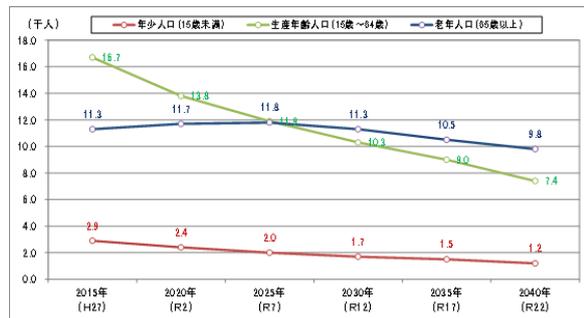
【宇陀市の将来展望 (H27 策定)】



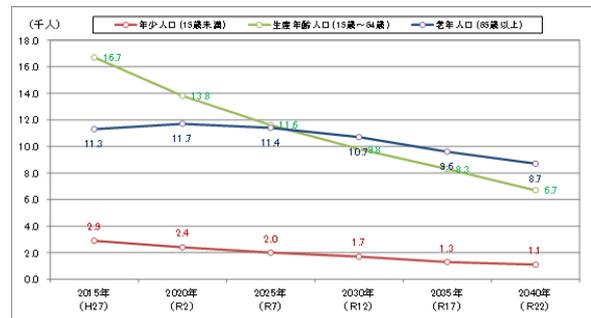
【シミュレーションA】



【シミュレーションB】



【社人研準拠の人口推計】



【シミュレーションC】

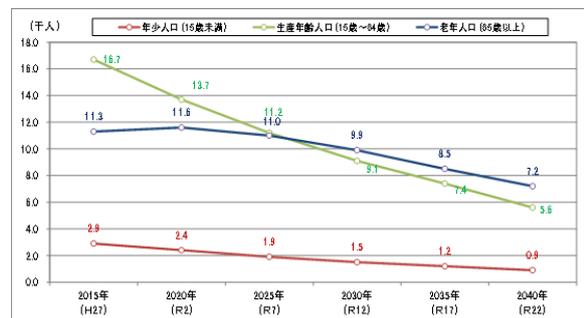


図3 年齢3区分別の人口推計結果

将来人口の推計結果より、出生数の増加や転入・定住者の増加、高齢者の健康寿命の延伸を実現することで、本計画では、宇陀市における人口目標として2040年までに人口20,000人を目指します。

(2) 宇陀市の人口目標に対する取組

【宇陀市の人口目標】2040年までに宇陀市の人口は、20,000人を目指す。

宇陀市の人口目標を達成するため、産業・観光、移住定住、子育て支援、健康づくり、安全安心な地域づくり等、多岐に渡る課題に対して、本計画では以下のように取り組みます。

宇陀市の取組

～産業振興・観光振興～

- 地場産業や農林業の振興を図るため、官民が連携し、担い手の育成やICT等を活用した産業情報の発信に努める。
- 地場産業や農林業の振興には、外部のノウハウや発想を取り入れつつ、観光とも連携させながら新たな販路の拡大やブランディング化を目指す。
- 地域資源を磨き上げ、育てていく戦略を展開し、産業の振興に努める。また、新たな雇用創出に向けた企業誘致の為の用途変更の見直し等に努める。
- 観光においては歴史的な地域資源を活かし、インバウンド観光を含め、新たな観光客を増やし、まちを活性化していく。
- テレワークやサテライトオフィスといった新たな視点での雇用の場の創出を図る。
- 産業の振興や地域課題の解決を図るために、未来技術を活用し、society5.0の推進を目指す。
- 市内の各種関係団体（商工会・森林組内・観光協会等）、市外の外部機関等との連携を密にし、新たな政策立案を目指す。
- 地元特産品の販売強化や飲食店・物販店の店舗増加により、商業サービス環境の充実とにぎわいの創出を図る。

～移住定住・子育て支援～

- 定住に向けては、産業振興や雇用創出とも連携するとともに、田舎暮らしの魅力をSNS等を活用しPRすることで、移住定住の促進を図る。
- 地域の担い手不足の解消に向けて、若者を中心とした人材が、地域や地域の人と多様に関わる「関係人口」を創出する。
- 安心して子育てができるよう子育て支援の充実に努めるとともに、メディア等の媒体を活用し、積極的に市外への情報発信を図る。
- 他市に先駆けた教育カリキュラムの導入（プログラミング教育等）により、魅力的な教育環境を構築する。

～健幸・安心安全・活力のある地域づくり～

- 人口が減少する中でも活気を維持するために、健幸都市ウェルネスシティの取組等により、健康寿命の延伸と高齢者の孤立を防ぐ地域づくりを目指す。
- まちづくり協議会や自治会を中心に、地域の連携と地域の課題解決に向けて、行政としての地域コミュニティの活性化や維持のため支援も図り、市民が主役の地域づくり・まちづくりを目指す。
- 持続可能なまちづくりを目指し、SDGsの達成に向けた取組を推進する。
- 地域包括ケア（宇陀けあネット等）による医療と介護の情報連携を円滑に行い、効果的、効率的で質の高いサービスの提供をする。
- 震災、風水害等に対して、地域や関係機関、行政が一体となった防災体制を確立し、安心安全なまちづくりを目指す。
- 地域公共交通の充実をはじめ、公共インフラの持続的な維持・活用を図る。

表 人口目標に対する取組と総合計画との関連 (1/2)

第2期総合戦略での枠組み		第2次総合計画での枠組み				
分野	対応方針	目指すまちの姿	施策			
産業振興・ 観光振興	地場産業や農林業の振興を図るため、官民が連携し、担い手の育成やICT等を活用した産業情報の発信に努める。	活力のあるまち	3	2	1	雇用の創出
			3	3	1	農業生産基盤の整備と農地の保全
			3	3	2	農林業経営・生産・流通体制の強化
			3	4	2	地元事業所活動の促進・支援
			3	4	3	新たな産業の展開
		生涯輝くまち	4	2	2	学校の教育環境の充実
	地場産業や農林業の振興には、外部のノウハウや発想を取り入れつつ、観光とも連携させながら新たな販路の拡大やブランディング化を目指す。	活力のあるまち	3	3	1	農業生産基盤の整備と農地の保全
			3	3	2	農林業経営・生産・流通体制の強化
			3	3	4	森林の保全と多面的利用の促進
			3	4	2	地元事業所活動の促進・支援
	地域資源を磨き上げ、育てていく戦略を展開し、産業の振興に努める。また、新たな雇用創出に向けた企業誘致の為の用途変更の見直し等に努める。	活力のあるまち	3	4	2	地元事業所活動の促進・支援
	観光においては歴史的な地域資源を活かし、インバウンド観光を含め、新たな観光客を増やし、まちを活性化していく。	活力のあるまち	3	1	2	歴史・文化資源の整備と充実
			3	5	1	観光基盤の維持・整備
			3	5	2	地域資源を活かした観光・交流の創出
			3	5	3	観光誘客の活性化
		生涯輝くまち	4	4	1	スポーツ活動の支援充実
自然豊かなまち		5	3	1	公園・緑地の維持・管理	
テレワークやサテライトオフィスといった新たな視点での雇用の場の創出を図る。	活力のあるまち	3	2	1	雇用の創出	
3		4	2	地元事業所活動の促進・支援		
産業の振興や地域課題の解決を図るために、未来技術を活用し、society5.0の推進を目指す。	活力のあるまち	3	4	3	新たな産業の展開	
市内の各種関係団体(商工会・森林組内・観光協会等)、市外の外部機関等との連携を密にし、新たな政策立案を目指す。	活力のあるまち	3	2	1	雇用の創出	
地元特産品の販売強化や飲食店・物販店の店舗増加により、商業サービス環境の充実とにぎわいの創出を図る。	活力のあるまち	3	2	1	雇用の創出	
		3	3	2	農林業経営・生産・流通体制の強化	
		3	4	2	地元事業所活動の促進・支援	

表 人口目標に対する取組と総合計画との関連 (2/2)

第2期総合戦略での枠組み		第2次総合計画での枠組み				
分野	対応方針	目指すまちの姿		施策		
移住定住・子育て支援	定住に向けては、産業振興や雇用創出とも連携するとともに、田舎暮らしの魅力をSNS等を活用しPRすることで、移住定住の促進を図る。	暮らしやすいまち	2	2	2	定住につながる環境づくり
			2	2	3	U・I・Jターンの促進
		3	5	3	観光誘客の活性化	
	地域の担い手不足の解消に向けて、若者を中心とした人材が、地域や地域の人と多様に関わる「関係人口」を創出する。	活力のあるまち	3	2	1	雇用の創出
			3	4	2	地元事業所活動の促進・支援
	安心して子育てができるよう子育て支援の充実に努めるとともに、メディア等の媒体を活用し、積極的に市外への情報発信を図る。	健幸なまち	1	3	2	子育て支援の充実
			1	4	2	地域医療と福祉の連携の推進
			1	4	3	国民健康保険・福祉医療費助成の推進
		生涯輝くまち	4	2	1	学校教育内容の充実
			4	2	2	学校の教育環境の充実
			4	3	2	地域の教育力の醸成
	他市に先駆けた教育カリキュラムの導入(プログラミング教育等)により、魅力的な教育環境を構築する。	生涯輝くまち	4	2	1	学校教育内容の充実
4			2	2	学校の教育環境の充実	
4			3	2	地域の教育力の醸成	
健幸・安心安全・活力ある地域づくり	人口が減少する中でも活気を維持するために、健幸都市ウェルネスシティの取組等により、健康寿命の延伸と高齢者の孤立を防ぐ地域づくりを目指す。	健幸なまち	1	1	1	健康づくり活動の支援
			1	1	3	介護予防の推進
			1	2	1	介護・福祉サービスの充実
		暮らしやすいまち	2	1	3	防犯体制と消費者保護の強化
			活力のあるまち	3	5	2
		3		5	3	観光誘客の活性化
		生涯輝くまち	4	3	2	地域の教育力の醸成
	4		4	1	スポーツ活動の支援充実	
	自然豊かなまち	5	3	1	公園・緑地の維持・管理	
	まちづくり協議会や自治会を中心に、地域の連携と地域の課題解決に向けて、行政としての地域コミュニティの活性化や維持のため支援も図り、市民が主役の地域づくり・まちづくりを目指す。	暮らしやすいまち	2	3	2	地域公共交通の充実
			地域力を発揮するまち	6	1	2
		6		4	1	地域力の向上・強化
	持続可能なまちづくりを目指し、SDGsの達成に向けた取組を推進する。	全体	-	-	-	-
	地域包括ケア(宇陀けあネット等)による医療と介護の情報連携を円滑に行い、効果的、効率的で質の高いサービスの提供をする。	健幸なまち	1	2	1	介護・福祉サービスの充実
			1	4	1	医療体制の充実
1			4	2	地域医療と福祉の連携の推進	
震災、風水害等に対して、地域や関係機関、行政が一体となった防災体制を確立し、安心安全なまちづくりを目指す。	暮らしやすいまち	2	1	3	防犯体制と消費者保護の強化	
		2	4	2	防犯体制と消費者保護の強化	
自然豊かなまち	5	3	1	公園・緑地の維持・管理		
	暮らしやすいまち	2	3	2	地域公共交通の充実	
地域公共交通の充実をはじめ、公共インフラの持続的な維持・活用を図る。						